

# Handsome

発行人 鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 小原 得雄 編集責任者 足立 聡 印刷所 東京印刷(株)



## とびきり鳥取夢発信!

—山陰夢みなと博覧会衛星2元生中継を終えて—



### 小原 得雄 会長

昨年、その計画を初めて聞いたとき、「いい思いつきでいいんじゃない、やってみれば」といったような感想しか持ち合わせていませんでした。しかし実際それは、私の想像をはるかに超えたものでした。

生放送というのは、出演する者、スタッフのすべての動きが、あらかじめ決められた時間内に収まって進行していきます。「やり直しはない」という緊張感の中で、我々は、ズブの素人でありながら素人であってはならないという、中央会活動の中で嘗てない経験を強いられることになりました。それでも、番組制作のプロである目次委員長の、このイベントに寄せる熱い思いに何とか応えようと、関係者全員が自らを鼓舞することができたのは、中央会の「英知、友愛、団結」の裏打ちがあったからに他ありません。終わった後のスタッフの涙がそれを存分に物語っていました。番組の出来は、決して満足のいくものではなかったかもしれませんが、少なくともわれわれに今までに経験したことのない清々しい達成感を感じさせてくれました。

この経験を糧に、われわれ西部青年中央会は、今までに増して研鑽を積み、地域の発展のために活動を続けて参りたいと思いを新たに致しております。

### 松本 啓 実行委員長

「俺たちはとんでもないことをやろうとしているんだ…」心底そう感じたのは、不覚にも本番6日前の全体会議の場であったように思います。それまでは大変なイベントをやろうとしているんだという意識はあっても、全く未知の分野のことでもあり正直のところ「目次君がいるからなんとかなるだろう」などという持ち前のアバウトさで、タカをくくっていたところが多分にありました。

庶務全般を一際取り仕切ってくれていた山中隆司君の如水館高校の甲子園出場（本当は実に喜ばしいことだったのですが）、前日のドライリハーサルや当日朝のリハーサルの様子からは、本当に大丈夫なのかなという不安が頭の中を駆けめぐっていました。にも拘らず、本番ではここ一番に強い青年中央会の行動力と団結力を遺憾なく発揮して大成功。

これも一人一人が自分の与えられた持ち場をきっちりこなした結果であると強く感じております。

### 目次 俊夫 ディレクター

中央会だからこそ、中央会しか出来ない、中央会メンバー手作りによる全国衛星生中継番組「とびきり鳥取夢発信!」。お陰様で大成功に終わりました。今、あらためて思い起こせば数々のシーンがよみがえります。

直前会長とこの番組を企画し、会員の皆さんと関係各所にお願ひにまわったこと…、地域ビジョンの皆さんと会議を重ね、VTRの撮影を行ったこと、特別委員会の発足と連日に及ぶ会議、深夜に及ぶセッティング、睡眠不足で迎えた本番当日の朝、30度を超す炎天下の中での汗だくになりながらの本番…、そして打ち上げのビールの実に美味しかったこと。出演者の皆さん、裏方の皆さんお疲れさまでした!

この一年間は私にとって、貴重な体験をさせて頂きました。また本番は、今まで体験したことのないスリルとサスペンスの2時間でした。

中央会による中央会メンバー手作りの番組ということでマスコミにも大いに注目されました。地域情報発信の新しい形として、また中央会の歴史に於いても大きな足跡を残したものと思います。

一般視聴者の皆さんからも様々な意見や感想を頂きました。中央会への励ましや、鳥取、高知、みなと博を認識して頂いたことは、本当に嬉しい限りです。

1997年8月3日。あの貴重な2時間を皆さんと共に一つになって過ごしたことは、私にとって何ものにも代え難いものとなりました。改めて中央会の素晴らしさを実感し、中央会に在籍していることを誇りに思っています。



今回のイベントを開催するに際し、鳥取県団体中央会様をはじめ、鳥取県、博覧会協会、境港市観光協会、高知中小企業団体青年協議会の皆さん、また番組に商品を提供していただいた鳥取、高知の各企業の皆さん、高橋OBを始めとする山陰ビデオシステムの皆さん、また各OBの方々本当にお世話になりました。

本当にありがとうございました。